

第1章 御楼門建立



完成した御楼門（鶴丸城御楼門建設協議会提供）



上空から見た鹿児島（鶴丸）城跡・鹿児島市街地・桜島
（北西から）



上空から見た鹿児島（鶴丸）城跡



柱の金物の錆跡が残る鏡柱部分の礎石
（幅約 1.2m、高さ約 1m）

◆御楼門とは

鹿児島（鶴丸）城は、1601（慶長6）年頃に、初代薩摩藩主家久が建設をはじめた島津氏の居城で、背後の山城（城山）と麓の居館からなる城です。

居館の正面中央には御楼門がありましたが、1873（明治6）年の火災で焼失しました。

焼失前の明治時代初期に撮影された古写真の解析や、現存する礎石に残る柱の金物の錆跡等（下写真）から、木造二重二階、高さ約 18m 鯨までは約 20m）、桁行約 20m、梁間約 8m とされ、国内最大級の城門と考えられています。